

令和元年度第2回境港市総合戦略推進会議録

日 時：令和元年11月12日（火） 14：30～15：45

場 所：境港商工会議所 大ホール

出席者：別添のとおり

傍聴者：1名

日 程：

1. 開 会
2. 副市長挨拶
3. 委員紹介
4. 協議事項
- (1) 「第2期境港市総合戦略」の策定について
 - ・【資料①】境港市総合戦略推進会議委員意見まとめ
 - ・【資料②】境港市総合戦略推進会議委員意見まとめ（自由意見）
 - ・【資料③】第2基境港市総合戦略のKPI・具体的施策（案）
5. その他
6. 閉 会

1. 開 会
(事務局)

皆様、本日はご多忙の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。只今より、「令和元年度 第2回 境港市総合戦略推進会議」を開催いたします。私は、事務局をしております地域振興課長の沼倉と申します。よろしくお願いいたします。

今年度初めて出席された委員の方もいらっしゃいますので、この会議について改めて説明申し上げます。

本推進会議は、平成27年度に発足し、同年に「境港市総合戦略」を策定いたしました。引き続き、この会では、毎年度「総合戦略」の効果検証を行い、ご意見をいただき、必要に応じて改訂を行ってまいったところでございます。

また、本年度は「総合戦略」の期間の最終年度となっておりますので、次年度令和2年度の「第2期境港市総合戦略」の策定に向け 今年度は計4回の開催を予定しており、今回はその2回目の会議となっております。当初の予定からスケジュールが遅れております。まことに申し訳ございません。ご公務ご多忙かと存じますが、委員の皆様には、引き続きご協力方、よろしくお願いいたします。

初めに、配布資料の確認をいたします。事前に送付させていただいておりますのが、「式次第及び委員名簿」、この後協議事項で用います、資料1 資料2 資料3でございます。

また、本日、「出席者名簿」、「配席表」及び大変失礼しました「正誤表」を机上配布いたし

ております。全てお揃いでしょうか。

それでは次第に従いまして、はじめに、境港市 清水副市長より ごあいさつ申し上げます。

2. 副市長挨拶

(副市長)

こんにちは、本日は、お忙しい中、本年度2回目の総合戦略推進会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また委員の皆様方には、日頃より境港市政各般につきましているいろいろとご配慮をいただいておりますことを誠にありがとうございます。さて、9月に第1回目の境港市推進会議を開催しましたが、その時に第2期総合戦略の策定に向けた貴重なご意見をたくさんいただきました。その意見を受けましてワーキングチームで取りまとめをしておりますので、本日お示ししたいと考えております。よりよい総合戦略の策定に向けて皆さんからの貴重なご意見、ご提言を忌憚なくおっしゃっていただければと思います。本日はよろしく申し上げます。

3. 委員紹介

(事務局)

ありがとうございました。

次第3「委員のご紹介」に入らせていただきます。本日配布いたしました、「出席者名簿」「配席表」をご覧くださいませ。この度の会義より、一般社団法人境港水産振興協会からの委員について森脇哲雄様から島谷憲司様に交代されておりますので改めてご紹介申し上げます。

本日は、8名の委員より、ご欠席のご連絡をいただいております。ご出席いただきました委員の皆様のご紹介は、大変恐縮でございますが、配席表の配布をもってかえさせていただきます。

なお、県の地方創生コンシェルジュ境港市を担当いただいております鳥取県西部総合事務所地域振興局西部観光商工課の八幡課長様にはオブザーバーとして、ご出席いただいております。よろしくお願いたします。

それでは、推進会議設置要綱第6条の規定により、本推進会議梶田会長様に、これ以降の進行をお願いしたいと存じます。よろしくお願いたします。

(会長)

ただいまご紹介にあずかりました観光協会会長の梶田です。一言ご挨拶というお示しでしたが時間がかなり長くなりそうですので挨拶は省略しまして、議事進行に入りたいと思いません。

なお本日の会議時間は、1時間半を目途に進行してまいりたいと考えておりますので、何卒ご協力のほど、よろしくお願いたします。

では、さっそく議事を進めさせていただきます。

次第4「協議事項」に入ります。まずは、「(1) 第2期境港市総合戦略の策定について」事務局から説明してください。

4. 協議事項

(1) 「第2期境港市総合戦略」の策定について (事務局)

事務局の木村です。よろしくお願ひします。

着座にて失礼します。

はじめに、9月3日に開催しました第2回総合戦略推進会議で質問がございました「転入件数」について、ご説明いたします。

大阪府からの転入が多い要因についてご質問を受けておりました。

調査をしてみたところ大阪の八尾市からの転入が増えており要因といたしましては、大型ヘリコプターが配備されてことで隊員が転入したたのではないかと推測されます。

また、修正がございましたので報告いたします。

お手元に配布しております正誤表をご確認ください。

資料1 3ページ 51番 右側欄

「水木しげる記念館では英語での音声案内を実施しています。」という風に掲載しておりますけれども「水木しげる記念館では英語・中国語・韓国語・ロシア語での音声案内を実施しています。」つづきまして、同じく資料1 5ページ 84番 右側の欄「地域交流促進のための学習会、講演会」で切れておりました、正式には「講演会の開催など親子のかかわりやコミュニケーション力向上に向けた事業の充実に包含」となっております。

続きまして資料3 4ページ 上から12番目

「大型防災ヘリコプター配備など自衛隊美保基地の更なる輸送機能強化への国への働きかけの方針」につづきまして、「削除」と記載しておりますが、まだ残り2期配備予定でありますので、「削除」ではなく「継続」、理由も空欄となり誤植でした。大変申し訳ありませんでした。

それでは、「第2期境港市総合戦略の策定について」説明に入ります。

まず(資料1)境港市総合戦略推進会議委員意見まとめ 及び、(資料2)境港市総合戦略推進会議委員意見まとめ(自由意見)についてご説明いたします。

前回の推進会議では、委員の皆様からご意見をお寄せいただきますようお願いしておりました。お忙しい中、ご意見をお寄せいただいた皆様におかれましては、誠にありがとうございました。ご意見は、2つの形式でいただきまして、一つは、現在の総合戦略における基本目標としている「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり」「子育てするなら境港」の枠組みの中でのご意見。もう一つは、枠組みにとらわれない自由意見としてお寄せいただきました。

それらを、それぞれ資料1、資料2と分けてまとめております。

ご意見に対して、地方創生推進ワーキングチームで協議した上で、次期総合戦略への掲載方針について「掲載済み」「掲載する」「掲載しない」の3つの考え方を「案」として、まとめております。

意見は全部で115件あり、そのうち、「掲載する」が21件、「掲載しない」が58件、「掲載済み」が36件でした。

続いて、(資料3)第2期境港市総合戦略のKPI・具体的施策(案)をご覧ください。

こちらでは、第2期境港市総合戦略に掲載するKPIと具体的な施策についての方針をまとめております。第1期の境港市総合戦略に掲載されているものをベースとしながら、新たに掲載する施策の「追加」や「修正」事業の達成による「削除」そして、市長会事業など、他の組織の今後の動向による「保留」の5つでまとめております。なお、引き続き、事業に取り組んでいくものは「継続」としてしております。件数としては「継続」が97件、「追加」が13件、「修正」が18件、「削除」が15件、「保留」が2件となっております。「削除」が「追加」を上回っておりますが、毎年度の効果検証により、必要な施策は増やしてきた一方で、事業が終了したものについては、策定時より削除をしておりますので、今回を機に一遍に削除となったという形となった側面もあります。

また、7ページの〈圏域の目標〉については、中海・宍道湖・大山圏域市長会において、検討されている最中であり、こちらも「案」としてお示ししております。

「削除」の項目について、一部補足説明をさせていただきます。資料3の3ページ下から2つ目「県や関係機関と連携して、グループ旅行支援、DBSクルーズフェリー・ソウル便・香港便等を利用した周遊型旅行商品の造成支援などの充実」については、「ソウル便が休止となったため」としてしておりますが、今後、ソウル便が再開された際には、改めて、追加したいと考えております。

続いて、4ページの上から2つ目にある「水族館設置に向けての基本構想策定」については、大型整備事業の実施が続いている間は、設置に向けた協議は凍結となっており、こちらも協議が再開される見込みとなった際には、追加したいと考えております。

これらは、案としてお示ししておりますので、これからの協議においてあらためて、ご意見を頂戴したいと存じます。よろしく申し上げます。説明については以上です。

(会長)

それでは、第2期境港市総合戦略策定について協議に入ります。事務局から一括して説明がありましたけれども、資料ごとにご意見をいただきたいと思っております。

まず、資料1について協議をしてみたいと思います。6ページにわたっており項目に1～93まで番号が付してあります。この内容について、ご意見やご質問がある方はご発言ください。発言される場合は、挙手の上お願いいたします。いかがでございましょうか。

(事務局：築谷総務部長)

総務部長をしております築谷と申します。事務局の補足説明をさせていただきたく思います。

せっかく委員様からご提言いただきましてワーキンググループで協議をいたしましたが、ボリュームもあり各課全般にわたりまして各課との協議が完結していない部分もございまして事務局案としてまとめさせてもらっています。ただ表現が一方的な冷たい表現もございまして、恐縮するしだいでございます。表現につきましては、もう少し適切な表現があったのではないかなと反省しているところでございます。また、私がワーキングチームの会議でミスリードをしてしまったところがございまして、例えば資料1の1ページのKPIの番号1、2、3の部分について 境港取扱貨物量の設定であるとか次のRORO船のKPIだとか貿易額に関する指標について、掲載しない

理由についてはこのように書いてありますが、市に直接的な資料がなく境港市が直接管理するわけでもないので、なかなかKPIを設定することが難しいと言ってしまったところ誘導されてしまってこのようになってしまいました。総合戦略は境港市役所だけで行うわけではございません。産官学民間の皆様方の力を借りている、当然管理組合さんもいらっしゃいますし、そうするとKPIの設定というのは至極当然設定できるものという具合に感じておりました。後ほど管理組合さんや貿易振興会さんにご協議をさせていただいた上でハードルが高すぎる又は低すぎないというようなKPIを設定させていただきたいと考えております。したがってこの、1番2番3番はKPIを「掲載する」ということでご訂正いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

(会長)

どういふことかももう少し説明を。

(事務局：築谷総務部長)

次期総合戦略の掲載方法案の右側の1番2番3番というのは「掲載しない」という表記をしておりますが、境港市役所だけではなくオール境港で総合戦略というものは立てて迎えていくものであるため、当然境港市が直接関与しない事業であってもKPIの設定は当然できるという風にするのが自然です。したがって、「掲載しない」ではなく「掲載する」ということで考えていきたいと思っております。ただ、KPIについては管理組合さんや貿易振興会さんと相談させていただいてハードルを上げ下げしていきたいと考えております。

(会長)

ただいまの総務部長の提案について皆様いかがでしょうか。

特に異論がなければそういうことで行きたいと思っております。

(会長)

それでは資料1について協議していただきたいと思っております。1～93の番号が付いておまして、かなり長いですがいかがですか。

(副会長)

資料3ページの40番。ホテルの誘致部分で私が書きました。その結果検討された内容ですとホテルや旗小屋はすでに立地しているし民泊もあるし、ロードの賑わいもできてるし、市が率先して進める考えはありませんとあるが、実は夜の賑わいというのはここにきて急に落ちている。なぜかという宿泊する人が歩くというのがあるからであり、だからこそホテルの誘致を考えていただけないだろうか、ホテルができるというのは採算の問題もありますが、ただ目標としてホテルを誘致していく。境港市が運営するというわけではなく、こういう進める考えはありませんという一刀両断にするわけではなくて、一つの大きな目標として設定すべきではないか。そうする

ことで、まあ、店が開いていないということもありますけれども、これは商売でありますので、人が歩けば必ずお店は開けます。やっぱり人通りを多くすることが、いいのではないかと思います。その辺いかがでしょうか。

(会長)

ただいま副会長より意見がありました、なにかありますか。

(事務局)

この度は、色々な意見をいただきありがとうございます。

そのなかでホテルの誘致ということであります。

事務局案の中には市が率先して進める考えはありませんとなっていますが、市内の経済の活性化ということを考えると、こういった企業も必要であると考えております。そういった意欲のある企業に対して積極的に情報を提供いたしまして、夜の賑わいづくりの一躍になるように努めていきたいと考えています。

(副会長)

では、この辺のところの文言は少し変えられますね。

(事務局)

変えることになります。

(会長)

これは市がするという事。

(副会長)

いや誘致をするということですか。

(会長)

誘致は、そこまで細かいことを・・・。

(副会長)

いやいや大きなことだと思いますけど。

やっぱりある程度市が誘致で動いていくということ。その中でホテル業者がちゃんとどうするかということ。市が運営するという事ではないです。

(会長)

よく分かりませんが、野乃についても市長のいろんな思いで誘致できたというところがあるの

で、それは別に構いませんが、役所だけではなく当然事務サイドが協力してやるべきことではないかと思えます。

(副会長)

もう一点は、2ページの25番です。水産関係の資源を活用した部分の研究機関についてです。マルハニチロと浜田市が組んで研究機関やる。境港は日本水産、共和水産ならびに弓ヶ浜水産、ニッスイといった企業があるということで、一方、鳥大の水産学部がどうなのかというと、あまり全国的に知名度は高くないし、研究員も少ないということがありまして、民間活力を利用するという文言を入れることによって、そういうような研究開発を含めたものができるのではないかなということを書いてみました。

この辺は島谷委員が専門なので聞いてみたいと思います。

(委員)

全国の5指に入る港ですから、そういう研究機関また、そこに学生なり研究者なり来ていただけると非常に活性化できるかなという考えです。

(事務局)

これまでも水産系の大学の誘致につきましては、鳥取大学ですとか、東京海洋大学等と意見交換をしてきているところです。意見交換をした際に、まずこういった学校の取引につきましては、学校と地域の交流や研究を課せていくことが重要であると言われていています。学校とか地域の連携を深めていきながら、また水産関係者の意見を聞きながら専門学校を含めた高等教育機関の誘致の可能性を現在探っているところです。これからもまた、探っていきたいと考えています。

(委員)

私は、他団体で経済同友会の中で境港活用推進委員会の委員長を仰せつかっておりまして、いままでは水産業についてスポットを当てていただきましたが、今年度、来年度は観光という部分で勉強していこうというので、今年はずヒアリングということで、管理組合、水産事務所、境港市、総合事務所の団体に出向いて、今後境港をどのように活用していったこの地域を盛り上げていくかというヒアリングをしました。そのなかで、資料1の観光資源であったりとか外国人観光客の誘致等いろいろ書いてあります。この度ターミナルも完成しました。

メインとなる観光は水木しげるロードになるかとは思いますが、3ページのところに境漁港、高度衛生管理型市場を観光客に案内ということで、これもいま観光デッキというのが中であって、延期工事ではそのようなものを展示するスペースもあるように聞いております。水木しげるロード、高度衛生型の市場、ターミナル、そしてサイクリングロードという地元になれば、そんなに目新しく感じないかもしれませんが、県外から来た人には楽しいスペースになるのではないかと思います。

それを繋ぐようなすべ、というのは何か考えておられるでしょうか。たとえばはまループバス

をまわすとか、レンタサイクルをする。

レンタサイクルは今試験的にすると聞いていますが、市として、観光資源になりうる点の部分を線に結び付けていき面にするようなそういう思考というものはあるでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。

まず、クルーズフェリーの2次交通ということになりますと、これは鳥取県の方になりますがJR境港駅とのシャトルバスを運行し、観光客の足の確保に努めています。

DBSクルーズ客船については民間のバスが運行に取り組んでおり、場合によっては赤字補填もして上陸してからの観光客の足の確保に努めているところです。

レンタサイクルについては観光協会により駅前で行われているところです。

そして境夢みなとターミナルでも開設されるということで、皆生と夢みなとタワーを結ぶサイクリングロードが今年度末には供用開始されるということです。こういった観光資源の活用につきましては、レンタサイクルも含め本日お越しの西部総合事務所西部観光商工課八幡課長とともに相談をしながら取り組んでいるところです。

(委員)

ここにも県がするとかいろいろ書いてありますが、どうしても、県がする、市がする、観光協会がする、民間がするなど縦割りでどこが本当に主体的にするのかが見えないところが往々にしてあるものですから、ぜひ縦割りをなくし協力体制をとっていただき何とか境の観光を促進していただくことをお願いしたい。

(会長)

ありがとうございました。

その他何かありませんか。

(副会長)

日本海（新聞）さんや山陰中央（新報）さんはありませんか

(委員)

前回の会にも出たましたが、委員さんと事務局がかみ合っていないような気がしています。

前回資料を出してもらい何か意見がないかということで、出したわけですけども2ページの21番とか読んでいますと、すごく思うのです。

どなたが出したかわかりませんが、「至極一般論ではあるが、どの産業に特化しどんな魅力を創出するか、まずはその方向性の決定に始まり、そのベクトルにあった企業を探索、或いは起業者を募集することが必要ではなかろうか」ということで、そのどういったところに、境港市が力を入れているのか何を今求めているのかということを問いながら効果的な企業を誘致しようよと

言うメッセージではないかと思えます。なぜこんなメッセージが出てくるのかというと、どこの市にも当てはまるような項目ばかりです。境港の個性があまり感じられないです。多分市民に説明しても分からないと思えます。それで出てきた答えが「掲載済み・既存施策地域の特性・実情に応じた業種に対する企業誘致活動の推進に包含」。これで説明責任を果たしているのかなという風に思っています。決して冷たいとは思いませんが掲載済みっていうのは、もう入っているよ、だったとするならば、もう少し細かい説明が必要だと思います。委員が集まってきていますので、何を委員から引き出そうとしているのか境港市の気持ちとか思いがもう少し前面に出てきたほうが、参加する意義が私はあると感じます。

どこもそうですが、総合戦略のKPIは多岐にわたります。例えばですが、項目別に何か分けて意見を聞いたりですね、今日はここについて話をしたいとかという、議論の濃淡をはっきりつけて進めていくと市民とこれを実現しようと思いが共有できるのではないかと思います。

わたしも一個一個聞きたいことはあるのですが、あまりにも多すぎてこの時間では聞けないと思うのですが、全体を通じてそのように思っております。

批判を恐れず正直な気持ちを述べさせていただきました。

(事務局)

貴重な意見ありがとうございます。

資料2の2ページの20番で推進会議の運営について厳しい意見をいただいております、まさにその通りでございます、進め方については役所の悪いところで、前年踏襲と言いますか5年前の進め方とまったく同じようなやり方をしている、今、ご意見をいただきまして、なるほどと思ったところで、たしかに、項目がいくつか分かれていますので、部会制などを敷くなどして専門的な意見をもっと組み上げて、さらにそれに時間をかけて市民の方にお返しする。または、委員の皆様にも、もっと資料を熟読できるような期間の資料提供をしてご意見を頂戴するなどすれば、今言われていたことが若干改善できるのではないかなと考えております。ただ、ことここに至っては反省すべきことばかりで恐縮ですが、今後3回目の会議もありますし来年以降もこの会は事業の検証などもやらなければならないので、その辺で生かす場面があればと考えている所存でございます。

(委員)

ありがとうございます。

今自分で出した意見を見つけまして、20番ですね「市幹部・担当者の企業訪問数（活動量を指標化）」しましょうよというのをださせていただきました。まあ、掲載しないということでお答えをいただきました。目標達成のために費用対効果の薄い活動をすることがあってはいけないためと書いてありますけど、そもそもそういうことは想定してなくて、数字稼ぎのために市の担当者が歩くってことは言語道断でございます。ここで書いております企業訪問数という意味は、こういったエリアのところはどういった業種の企業訪問をされているのだろうかというようなことをですね数字ではなくて、それが実際に企業誘致に結び付ききっかけになるのかどうか、という

ことを推進会議で共有するような場があつていいのではないかというつもりで書いております。

県レベルになりますと、企業訪問とか効果が薄い、あるいは結果が出るのが相当長いとかあるかもしれませんけど、この辺の機動力が知りたいという意味で書いたということがあるのです。

数字の達成のために血眼にならない動き方、それは、当たり前の話でありますので、そこまで私らが数字を達成しなかったからと言って境港市だめだなという風には思いませんので、もう少し自分たちはこれがやりたいんだという事務局さんの思いをもっと出していただくと、そこについて議論ができる。今度やるのであればポイントを3点ぐらいに絞ってこれについて議論させてください。という申し出がありますと、委員の方もなら考えなきゃいけないんだという風に思います。

全体の中で何かいいものはないですか、出してください。で出しました。「やります」「やりません」「掲載済み」ですというだけだとさっきの質問になりますけども、何をしたいのかという前提がみんな分かっていないので、どういう状態なのか何がしたいのかと分かった上で答えを出したいと思っていますので、次回から工夫をお願いしたいと思います。

(会長)

わたしからも意見を述べさせていただきます。最初に、企業訪問の話が出ましたが、これを読んだときに民間のような発想で市役所にそんなことを梓にはめてもできるわけがない。

そもそも設問自体に問題があるという風に感じたところでございます。

それとですね、項目があまりにも多すぎるのですよ。この項目で議論しろと言われても時間が何時間あっても足りません。できるのであればやってみてください。

打った手が間違っているということしかない。ですからやり直しをしないといけません。

なにか皆さんご意見ありませんか。あれば述べてください。きりがありませんが。さっきのような議論が出てくると。

(事務局)

いろいろご意見いただきありがとうございます。

今後の反省課題。取り入れるものがあつたら取り入れていこうという方向でしか今の段階では、お話ができません。

現時点では2期の総合戦略をまとめていかなければならないので、本日はやはり、事務局がまとめた意見についてご意見いただいて2期の総合戦略の素案作りに進んでいきたいという思いでございます。

よろしく申し上げます。

(会長)

わかりました。ではそういう議論の筋道の中で話をするということにしてください。

(委員)

段取りが悪かった部分もあるのかと思います。

掲載するしないの部分が全面にでていて、結論ありきのような印象を受けたのは資料を受け取って、最初からストーリーができていけるのかなという印象を受けたのは事実です。

そのうえでリクエストしたことに対しての行間の部分はこちらからも伝わっていないかと思います。思いや行間の部分をくみ取っていただくような形を我々も伝えていかなければならない。

わたしも何点か提言した部分では、例えば水産加工品の機能性調査だとかスマート漁業であったりとかを提案したのですが、やはり1事業者では限界がある取り組みというのは、直接市がやるというのではなくても例えば研究機関に対する助成であるとかサポートであるとか。いわゆるsociety5.0とか言われている今回の国の総合戦略の中でも柱となる補助金がありそうな部分を狙っていくには、そういった技術革新の要素を境港の既存産業の中にどう組み入れていくのかという視点というのはあったほうがいいかなと思っていくつか話をしたところです。

そのなかに掲載するものもあれば、掲載しないものもある。民間が進めているのでお任せしますよというのであれば、反響もあったのですが、そこらへんは1企業が取り組みにくいようなことを側面支援するような財政づくりは、行政官としてはやってもいいのかなと思いますので、そこらへんも含めて検討いただければと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

重ねてになりますが、事務局案として掲載方針として案として示させていただいておりますが、本当に言葉足らずのところがありまして、読んで四角四面に受け止めるような、なんか冷たいような印象も私自身思ってしまったところもございまして、ご指摘の点を踏まえながら、わかりやすくご指摘いただいたところも十分に検討しながら2期の令和2年度からの5か年の戦略を定めていかないとと思ったところで今後ともご協力方お願いいたします。

(会長)

その他ございませんか

それでは、きりがありませんので資料2に移りたいと思います。

自由意見については項目に1から22までの番号が付してあります。

この内容についてのご意見やご質問がある方はご発言ください。

しつこいようになるかもしれませんが、資料2の検討をするだけでも何時間もあっても足りませんよ。どうします、何かご意見ありませんか。

(委員)

2の項目ですが、体験学習とか項目が出てきていますが、これはどういった体験をさせるつもりでしょうか。今やられているのが3年生単独とか、4年生単独とかの事業で、1年間で終わって次々新しい子が出てくる。このまま1年だけ体験させて、本当に産業をついでくれる子が出てくれるのだろうか非常に疑問です。今ほとんどの体験学習がそういった風になっていますので、

その辺の考えを聞きたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。体験型学習ということでありまして、例えば農業分野におきましては、市の方で取り組んでいるのが伯州綿ということでありまして、これにつきましては、ご存知だと思いますが、課題なるだろうというものでありまして、平成20年以降市の方が、伝統的農法を後世に伝えていかなければならないということで、小学生をはじめ出張講座をして、子供を中心に学習をしていただいているところであります。あと伯州綿の中でも和紙をつくる取り組みもおこない、各学校に出向いて実際に子供の手で作るようなこともしております。

(委員)

成果はどういう風にみていらっしゃいますか。本当に特産品化するという考えがあるのでしょうか。あるならあるでもっともっと踏み込んだ、そういった子供たちにただイベント的なことで体験させることは普通の勉強と違って喜ぶんですね。喜ぶけれどもそれだけになってしまっている感じがしてならない。

私たちが子供と行っているのは、もっともっと深いほんとは2日間かけて勉強会するとかそのような体験学習をさせています。室内で勉強させてそのあと屋外に出て実際にどのようなつながりがあるか、そういった姿を見せながら子供たちと話し合いをしてやっていますが、たった90分、45分とかの事業でやってやったといった風になってる気がしてならない。それで本当に効果が出てくるのか、私は出てこないという風に感じてなりません。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。まだまだ足りない部分もあると思いますので、委員の意見とかを活かしていきながら、実際に子供たちと物をつくるといったような取り組みを行っていきながら、子供たちみんなにもという形にしていきたいと思います。引き続き越しご指導のほどよろしくをお願いします。

(会長)

よろしいですか。それでは次の議題に移りたいと思いますけれども、何かほかにございせんか。

ないようでしたら資料3。資料3はKPI・具体的施策案です。

これに関しご意見ご質問のある方はご発言ください。

(副会長)

報告になると思いますけれどもここの米子鬼太郎空港・DBSクルーズの3ページでございますけれども下の方から修正ということで国際線利用者数にこれに関連しますと、国際定期便航路促進協議会という会議があります。今回エアソウルがダメになった予算をですね上海航空の吉祥航空

にまわすことが決定しておりますので、これは境港市がやるべき一案ではないと思いますけれどもそういう形で上海便に対してソウル便と同じような制度にする。ソウル便でとった予算を吉祥航空にまわしていくということになります。

これは関連する具体策というところと一緒にございます。

また、環日本海定期貨客船航路、俗に言うDBSのことですけれども、管理組合の永田さんはよくご存じだと思いますが、70人から90人ぐらいしか乗ってきていないというのが現状であります。

したがって今舞鶴の貨物で何とか凌いでおりますけれども、これに対して韓国側でまたライバル会社ができます、東草またはザルビノからでも出そうかという話もあって、これも具体化がどこまでされているかわかりませんが、非常に韓国側も今いろいろなことで動き回っているということもあってDBSの継続というのが、黄色どころか赤信号に近いということではないかということ非常に懸念している。ただあくまでも韓国のご事情でございますので、昨今の日韓問題、政治的、経済的問題なりで、いろんな問題がありますので、1自治体ではなかなかできない状況になってくる中でのその辺の限界があるのではないか。この辺は成り行きをみながら戦略としては継続的なものはしておくという形の中でまとめていったほうが良いのではないか。あまり具体的にKPI的なことをやってしまうと、エアソウルみたいにやめちゃいますわってことになってしまいますと、そう言うことになります。

ちなみに資料を持ってきたのですが、中央日報というどちらかというと保守系の新聞であります、ハナツアーという韓国で一番大きいツアー会社でありますけれども、10月のデータですけれどもやっぱり旅行者数中国香港も含めたものが30.6%減少。米州は2.7%減 欧州10.9%減 南太平洋15.9%減 ということ東南アジアだけが1.2%増ということで日本旅行に代外旅行はないという業界内の話が証明されたということでございますので、ここは我慢比べということ。

それから日本は飛行時間が短く不思議な食べ物、快適な環境があるということで日本を選ぶ客が潜在的に多いということでございますけれども残念ながら韓国の情勢もあって日本になかなか来ない。ちなみに羽田線は満席だそうでございます。

したがってエアソウルがまた復活する可能性もあるのではないかと考えていたところ、大体今月か来月頃アジアナ空港、エア釜山、エアソウルの売却先が決まるということが出ておりました。

ここがどこになるかということでもありますので、今後米子空港に来てくれるのかということも今度はオーナーが変わるわけですから非常に流動的な面があります。

したがって鳥取県としては上海便に傾注していくことが堅実ではないかと考えます。

(事務局)

ありがとうございます。

今たしかにKPIをこういう文言表記で第1期は載せております。

目標人数をかかげてはおりますが、いま貴重なご意見をいただきました。

今後素案を作るまで時間があります。基本的にはKPIはそのまま継続させて修正して載せていただく方向ですが、素案を作るまでにご時世がガラッと変わるようであれば、今いただいた意見

を尊重して標記の変更もありうるという含みでご理解いただければと思います。

(会長)

その他ございませんでしょうか。

(副会長)

管理組合からなにかありませんか。

(委員)

DBSに関しましても管理組合でどうこうというわけには難しいところがあるので、日韓関係のこともありますので、この辺はアンテナを高くして引き続き動向を見ていきたいと思っております。

それと、先ほどから色々とお話に出ていますけど、項目が多すぎてどれについて聞かれても迷ってしまうところもありますので、そのところ資料の作り方について工夫ができるところはお願いできたらなと思います。

(会長)

おっしゃる通りです。

最初からたくさん資料がきて、それをこういった会で話せと言ってもできるわけがない。それだけ大変なことをやろうとしているということだと思います。そういう認識を持ってもらわないといけません。こういう会合をやって観光協会の会長が声を出せばうまくいくんだということのないように。たいへん難しいことだということは認識していただきたいと思います。

(委員)

資料3でちょっと気になったことがあったので、1ページの1番下ですね農業・水産業の担い手育成・確保の下から4行目、「荒廃農地の有効活用をはかるため、農業公社による農地の流動化の促進」というのが「継続」となっておりますけども中身がなかなかわかりにくいし、それから今ハード面がすごく整備されました。港湾、空港、観光客がいっぱい来ますけども荒廃地の山ですよね。これどうするつもりなんですかね。流動化といっても大きな干拓地があって今ここは農家の田んぼや畑になるはずがない。では今これをどういう具合に活用していけば良いのかということを考えていかないと、おそらく田んぼや畑に戻すことは不可能ではないかと思うのです。大きな干拓地があってそこで大きな面積が全部耕作されていますので、ましてや今後開発していくことはないと思うので、もっと他に活用があるのではないかという具合に思いますけどもその辺はどう考えておりますでしょうか。

(事務局)

重ねてありがとうございます。

市内の荒廃地が目につくのではないかということですが、確かに離農される方や高齢化により農業をやめられる方が多いのが現状でございます。ただ一方ですね境港市は特産のネギというのがございまして、これに向かって就農していくという方も毎年2人から3人ぐらいの方が若手農家ということで今お話したところです。

市といたしましては、荒廃農地が多くならないようにできるだけ少なくなるように、今事業といたしましては、こういった荒廃地を田んぼも含めてですけど整備をして、若手農家ですとか地域の担い手農家、まあネギ中心なのですけども農家の方に分譲して行って産業としてのネギを育てていくのと合わせて荒廃地対策進めていくという風に考えておりまして実際に取り組んでいるところです。

(委員)

そういたしますと、やはり農地、田んぼに戻す方針でおられるのですね。

できますかそういうことが本当に。農地がそこまで必要でしょうか今。まだ農地が足りませんか本当に。そしたらあれを本当に畑や田んぼに戻す。すごく経費もかかると思いますしそれだけのことで農業が本当に採算と合うのか。どっから資金を出してくるのか。大きな問題になるんですね。もっと他に使う道がないのですか。例えば、どこにも負けないビオトープ(※)を作るとか、そういうこと学習の場にもどんどんできるそうです。そういうことを考えれば今、農地を作ってどうするのかなという気がしてならないのです。そんなにどんどん若手の就農者が増えるの見込んでいるのですか。そういったビオトープとかなんとか外国から来られたお客さんもちょうとここに入るようなそういう場所に作ることも考えていくことも一つの方法ではないかなと思います。

※ビオトープ・・・動植物が恒常的に生活できるように造成または復元された小規模な生息空間

(事務局)

ありがとうございます。

基本的には農地は法律での制限がありますので、基本的には農地は農地として活用していく考えではありますが、先ほど言われましたようにビオトープそういったことへの活用もあるのではということ理解できました。こうした委員会を通して、こういったことも大事じゃなかったのかなと思っております。引き続き私どもにない行政にない考え方を示していただきながら市の荒廃地対策に取り組んでいきたいと思っていますので引き続きご指導のほどよろしくおねがいします。

(委員)

資料3の5ページ子育てするなら境港というところなんですけれども、その下から5項目児童クラブ事業の実施等拡充というところなんですけども、まあこれ削除。6年生まで受け入れ可能となっているのということです。その文言の中で指導員及び学校の空き教室の確保が難しくなっているということです。

児童クラブというのは共稼ぎ家族の親御さんのサポートという面が一番だと思うのですけれど

も、やはり子供を受け入れる以上は教育というかそういう部分があるかと思います。そうすると指導員さんの資質的なもの、これは大事なことじゃないかなと思います。

なんで指導員さんの確保が難しいのか待遇面なのか児童クラブの環境なのかわかりませんが、そのあたりはしっかり子育て世代の人が安心して子供を預けられるような児童クラブの運営、環境というものを今後ちょっとここでは削除になってますけども内容についての向上と言いますかそのあたりの検討をしていただきたいというところです。

(事務局)

児童クラブの件について教育長の松本でございます。今ご指摘をいただいたことは我々にとって重要なテーマでございます。まずは指導員の候補者がいないというのは現実にはございます。その理由は様々あるとは思いますが、やはりその子供さんをお預かりすることの難しさ。いろいろな目的があるお子さんを預かるということは大変でございます。したがって希望されて職にはつくのですけれども、すぐ辞めていかれるという現実がございます。したがってその指導員の質を高めるということは、我々にとって重要であり研修の場は継続してやりたいという風に思っています。

もう一つの方法として、今は児童クラブだけを境港市はとっているのですけれども放課後子ども教室という、もう一つそういった事業もございます。これは、地域の方、例えば公民館でいろいろ講座がある中に子どもさんも入っていき大人と一緒に学ぶというような事業、あるいは児童クラブではなくて学校の図書館にいて子どもが自主的に学習をするというような形で放課後を過ごすという事業もあります。

そういったことも組み合わせながらこれからの放課後の子どもさんの環境を充実させるということは非常に重要なテーマでございます。

(委員)

米子市の啓上小学校と東保育園でしたか。同じ敷地内で立替をするという取り組みをされています。

そのなかでコミュニケーションツールを作ったりだとか、ということもこれから設計をするようになっています。そういったいろんな取り組みをしていますので、境港市としても教育長がおっしゃられたように単体ではなくて総合的な複合的な子どもさんの関わり方というものを検討していただきたいと思います。

(副会長)

自治連合副会長そのへんはどうですか。

(委員)

わたくし連合会の方から出ているのですけれどもそれで公民館の方で活動しておりまして、教育委員会とは特に綿密な話をさせていただいて我々の狙いとか、いろいろなことを聞きながら

それでもかなり内容は上がってきているなという風に感じております。

先ほどの児童クラブさんの件ですが、確かに児童クラブ生徒さんの数が非常に増えてきているということで指導員の方と話をしているのですが、かなり苦しんでおられます。これは、費用の面かもしれません。ただ先ほどのように辞めていくということを考えるとやはり厳しいのかなという気がします。

境港では特に女性の方が働く機会が多いということで預けられる生徒さんもたくさんいる。その所だけを考えるのであれば、もう少し色々ことを考える要素があるのかなと思います。時間も子どもたちいっぱい使って公民館でも受け入れをしたりして一緒になって子どもたちを育てようという活動もしておりますので、少しその指導員さんと教育委員会さんの方でももう少し色々な意見交換をしていただけたらもっと良くなるのではないかと思います。

(副会長)

この戦略会議というのは基本的には、この境港市を将来どういった形にしていくのかということだと思います。(人口は)現在3万4千人を切っております。生産年齢人口もどんどん減っていく少子化になる。そうすると3万4千人がいずれ3万人を切ってくるその中で境港市がどうやって生き残っていけるか。他市とどういう風にして変えていくかその辺のところは本来の戦略会議ではないのかなと個人的には思っております。

まあ、この項目が多いのもいろいろバリエーションを積み上げていくということについては必要なことかも知れませんが、第一番の骨幹というのはやっぱり人口減少、生産年齢の減少、少子化その辺のところを子育て支援を中心に考えていながら、その中でどういった産業が今後成長していくのか、あるいは既存の産業が成長するのか、あるいは外から持ってくるのか、そういう問題が議論されてしかるべきではないのかなという風に思っております。境は境の独自の戦略というものを持っており、3つの港を持ち、そして災害も少ないこの地域です。もうインフラ条件というのは整ってきているわけです。あとはどうやって我々が考えていくかということです。後世の境港の市民たちに我々がどうやってこの将来を考えて生き延びるためにやったか、ということをもう少し今後は焦点を絞って、そして今みたいないろいろな意見を聞きながらやっていけたらと思います。会長がおっしゃられたように今回は項目が多すぎて何言っているかわかりません。

それで皆さん一生懸命努力されている。市の担当者が努力されていることは重々承知しておりますけどもその点はもう少し具体的にこのようにしたらいいのではないかと考える。

その最大の根幹というのは人口減少、少子高齢化ここに歯止めをかける。ここから始まるのではないかなと私個人は思います。

(委員)

移住促進のところなのですが「県外からの高校入学者の確保に向けたPR活動」ということで高校は県ということで県の施策の方をHPで報告するとあるのですがけれども隠岐の島とかそちらの方の高校で移住等に力を入れている。境港市としてはどういったエリアのどういった子供に来て

もらって例えば水木しげるロードに観光に小・中学生ぐらいに来てその子供たちが、境港総合高校とかで水産技術を学んで境港の水産だとか食品系に就職して定期借地で夕日ヶ丘に住んで、そこで婚活だとかやって結婚して子育て世代になって市に恩恵を受けながら保育園で預かったりだとか、というようなストーリーがしっかり出来上がるとほんとに分かりやすくそのエリアの方が来て夢を実現するというのがわかりやすいと思うので、何かそういったストーリー性をもってマーケティング的な要素を取り入れて発信することによって、また向かい方が違ってくるのかなと思いますのでそこらへんとかもししっかり考えていただければと思います。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございました。

今県立高校しかございませんので、県立高校となるとやはり所管が鳥取県ということで、そうすると県外入学枠を作ることはどのように考えてどのように県外入学枠を設定するかということになってくるので鳥取県全体の問題になってくるとかと思います。

そういったソフト面の事業が展開できないか打診を受けておりますけれどもまだ具体が表れていないところでございまして、そういった形で移住定住の促進策につながっていけば、そういったことで鳥取県と今後協議をさせていただきたいと思います。

6. 閉 会

(会長)

ありがとうございました。

そろそろ時間が参りましたので、これで終了させていただきたいと思います。

長時間にわたりご協議賜り厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(事務局)

本日は貴重な時間を賜りましてありがとうございました。

資料作成の進める方向それから議事の進行ももっと工夫をしてみたいと存じます。

次回の開催につきましては、年明け早々になります。1月9日の午後を予定しているところであります。ここ商工会議所大ホールですとございます。

本日いただきましたご意見、また再構築させていただきまして、第2期総合戦略の素案という形でお示しさせていただければと存じます。

開催案内と資料につきましては順次追って送付させていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

合わせまして人口ビジョンこの案につきましても資料がトントンと一緒にということではなくて出来た物からということ。早く見てもらうということも大事かと思っておりますので準備させていただいてご送付させていただきたく存じます。事務局からは以上でございます。

(会長)

はいありがとうございました。

それにではこれを持ちまして会議を終了させていただきたいと思います。

ありがとうございました。